

百名山自然ガイド 丹沢

とくのだけ たんざわさん ひるがたけ

夏の塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳

1

○フナの葉は、ふちが上下に波打っているのが特徴です。また、中央の葉脈から左右に分かれいく支脈の数は9本前後(7~11本)で、若い葉には、表にもうらにも白い毛が生えています。

○よく似たイヌフナの葉は支脈の数が多く、10~14本あります。マメグミの葉は先が細くつき出していて、支脈の数は6前後です。



フナの葉の見分け方

丹沢のフナの林は今…

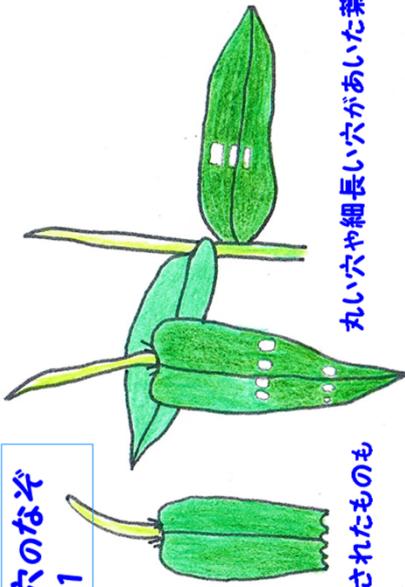
○丹沢は、四季おりおり美しく姿を変えるフナの林で知られてきました。フナは、冬になると木の葉を落としてしまいます。日本の落葉広葉樹の森を代表する木で、涼しい場所が好きなため、丹沢では、主に標高1000m以上の山頂部に生えています。

○しかし1970年代ころから、枯れてしまう大木が目立ち始めました。人間の活動で生じた酸性雨や気温の上昇がフナを弱めていることが疑われていますが、フナハバチといつ虫の子どもがたくさん発生して葉っぱを食べてしまうことも、追い打ちをかけています。

○フナは、乾いた気候がにがてです。雪深い日本海側に大きな森を作っていますが、冬に乾く太平洋側では、少し無理をしている場所が多いです。ぎりぎりのバランスがくずされたのがもしまれません。

○これから、フナの若木が長い年月をかけて育ち、大木の林が再び復活してほしいものです。

ササの葉の穴のなぐ ヒント1



○尾根道を歩いていると、穴があいているササの葉を見かけませんか。この穴は、どうしてあいているのでしょうか？
○けものの歯形にしては、横にまっすぐ並び過ぎています。人が道具でつけたものではありません。白い点々が並んでいるだけのものもあります。13頁のヒント2を見る前に、ぜひ推理してみてください。

3

2

山頂のササ原:ミヤマケマサヒサとスズタケ

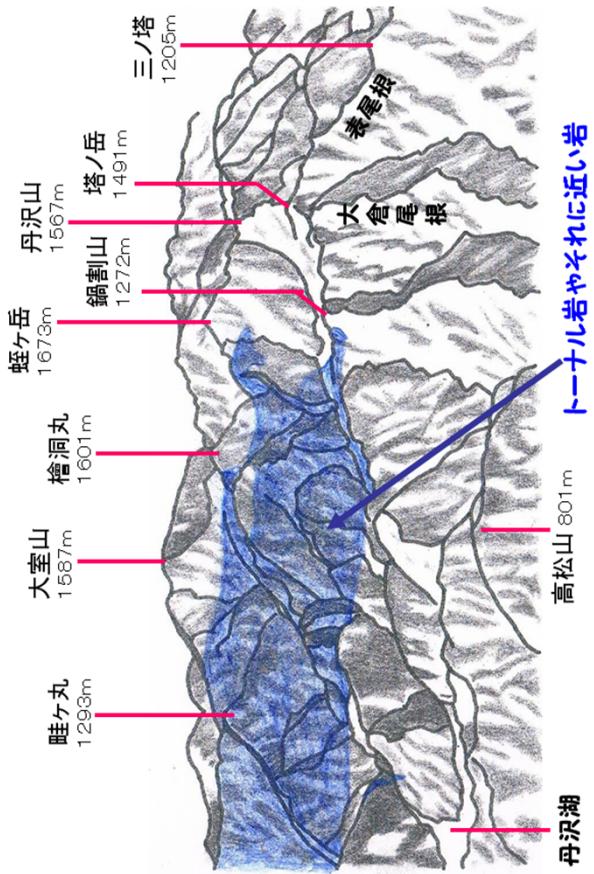
○丹沢の山頂部には、ササ原が広がっています。ササは、日本の気候になじんで、たくさんの種類に進化しました。

○ササの種類を見分けることはむずかしいのですが、丹沢の山頂部で見られるのは、ミヤマクマサカスズタケのようです。どちらも冬に葉のふちが白くなり、春になると、新しい緑の葉と交代します。

○葉のうら全体に細かい短い毛が生えているのがミヤマクマササですが、拡大してよく見ないとわからないかもしれません。スズタケの葉は幅が少し細めで、葉のうらの毛はありません。最近まで広い範囲に生えていましたが、シカに食べられたときの回復力が弱く、近年は枯れてしまうことも進みました。急速に分布がせばまっています。

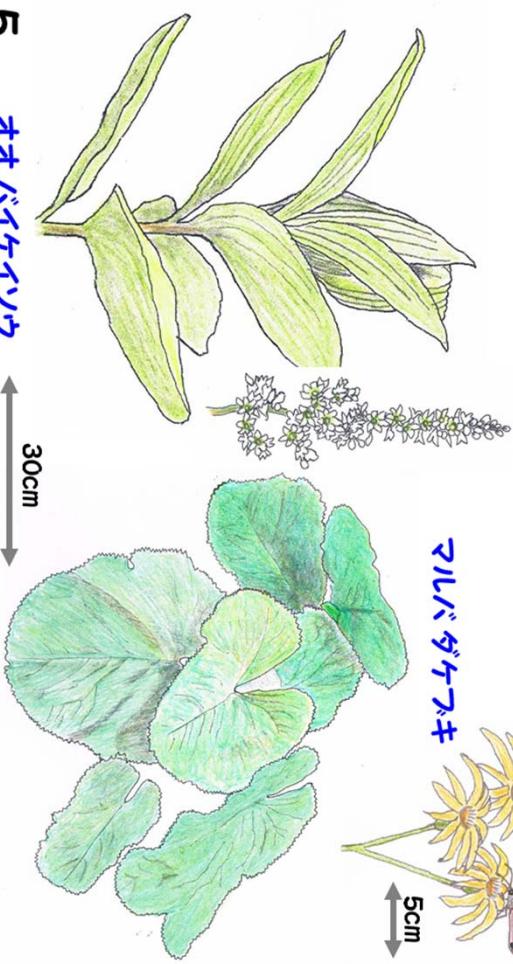
○地下茎でつながったササ原は、土がけずられて山が荒れるのを防ぎます。しかし、他の草や若い木が育つじやまをし、枯れるときはいっせいに枯れてしまう、という問題をかかえています。

南から見た丹沢山地とトーナル岩のおよその広がり(青く着色)



大きな葉っぱ比ベ

アサギマダラ



オオバイケイソウヒマルバダケフキ

○春から夏にかけてのブナの林では、オオバイケイソウヒマリベダケフキの大きな葉が目立ちます。どちらも有害な物質を含み、シカが食べるのを遠ざしているため、生える場所が広がっています。

○オオバイケイソウは、高山の草原に咲くコバイケイよりもずっと大きく、花も加えると、への背たけくらいになります。7月頃、まっすぐに伸びた茎の上部にたくさんの白っぽい緑色の花を咲かせます。

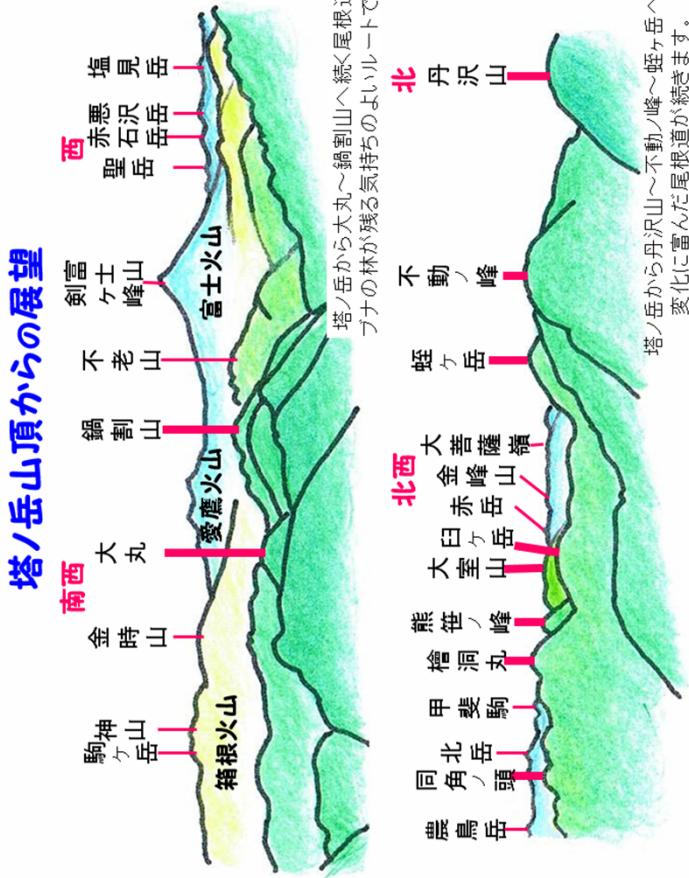
○春先に芽を出して急速に育つオオバイケイソウですが、木々の葉が茂って日陰になると、生長が止まります。花をつける様はごく一部で、それ以外は、皆茶色く枯れてしまいます。地下の根茎に栄養をたつ

○マルバダケブキも、春～夏にかけての日の光を受けて大きくなり、8月頃に黄色い花を咲かせます。アサギマダラといチヨウはそのみつが大好きで、含まれている有毒物質を、自分の身を守ることや、お母さんを呼ぶためのフェロモン作りに利用するのです。

塔ノ岳から丹沢山～不動ノ峰～蛭ヶ岳へは
変化に富んだ尾根道が続きます。

11

10



伊豆半島のしうどうじつが生まれた？丹沢の山々

- 伊豆半島を乗せている岩盤は、昔はもつと南の海の中にあつたと考えられています。それが少しずつ北へ動いてきて、今から100～200万年くらい前に、その先端が本州になつたらしいのです。
- もつと昔には、1200万年ほど前に檍形山地(くしがた山地)の岩盤が、900万年ほど前に御坂山地(みさか山地)にある山地)の岩盤が、それぞれ南から動いてきて本州に付け加わったらしい、とも考えられています。

丹沢山地の中心部にはトーナル岩

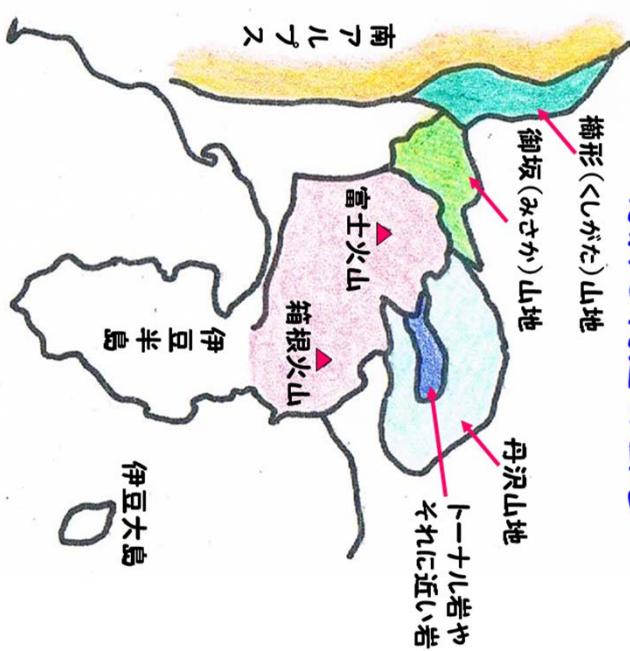
○丹沢山地の中心部に広がっているのは、「トーナル岩」という聞きなれない名前の岩やそれに近いもので、マグマが上がってきて、地中深くでゆっくり冷え固まった岩です。

○トーナル岩は、アルカリ長石という鉱物をほとんど含まないことが特徴で、その点は「石英せん緑岩」に似ています。以前はその名前で呼ばれていましたが、正確に呼ばれることが増えました。少しだけ石英を含む石英せん緑岩より、もっと多く石英を含んでいます。

○トーナル岩は、檜洞丸(ひのきぼらまる)の西側斜面や、もつと西の蛭ヶ丸(あぜがまる)などの山をつくっています。しかしそれより、玄倉川(くろくらがわ)や中川(なかがわ)など、西丹沢の谷で広く見られます。

○塔ノ岳～丹沢山～蛭ヶ岳など、丹沢の高い所をつくっているのは、昔の海に噴き出した溶岩や火山灰、流れ込んだ砂や泥などが厚く積もってできた岩です。トーナル岩のマグマはそうした岩の下に入り込み、丹沢を押し上げて山地にする力のひとつになつたようです。

丹沢と周辺の山地



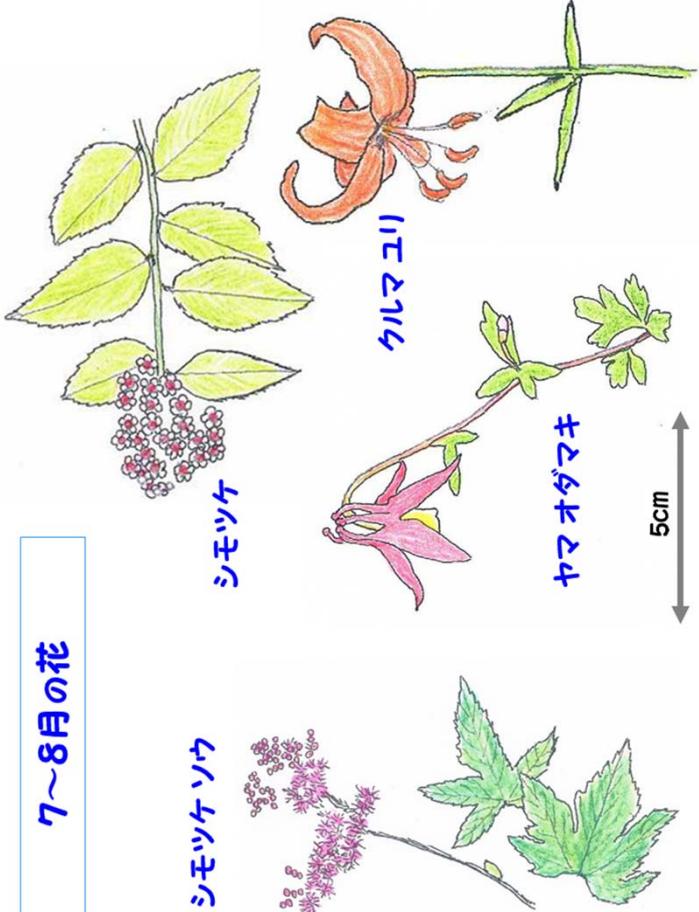
8

9

ごみ箱、資源箱に大きな影響を与えます。
ごみ箱、資源箱に大きな影響を与えます。

ヤマオダマキ

5cm



7~8月の花

シモツケソウ



シモツケ



左のアドレスのQRコードです

<https://yama3823.com/100meizan/tanzawa/index.html>
「丹沢山自然ガイド」は、丹沢山の楽しみをいっそう大きくすることの
お役に立たないかと考へながら、山の美しい自然をいつまでも大切
にしていきたいと願う仲間で作成しています。四季そぞろに分けた案内を下記に掲示しました。機会がございましたら、別
ぞれに分けた案内を下記に掲示しています。(httpから httpsへ変更しました)。
など、お書きくださいと嬉しいです。yama3823 @ yama3823.com
(メール送付のときは、添付ファイルはつけないようにお願いします)。

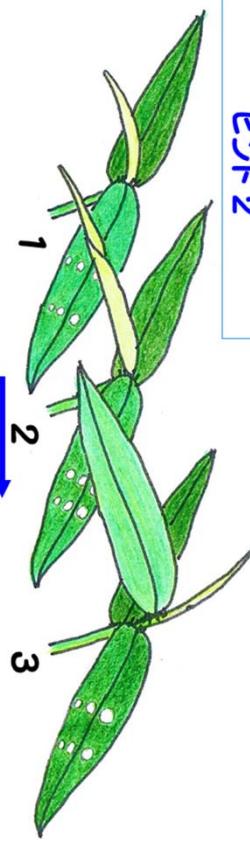
- 山では、ちょっとした不注意や判断ミスが事故につながります。
安全を心がけて、余裕のある計画を立てましょう。特に夏は、雷雨
が心配です。夏の午後は、早めに行動を切り替げましょう。

- ほどんどの山で、登山道の脇に岩石の群衆が散りばめられています。
子供のコースや日曜日は、山頂に集中します。

- 動物や岩石の群衆が散りばめられている区域がたくさんあります。
そうではない場合、歩道の自然を大切にしましょう。

- ごみ箱、資源箱に大きな影響を与えます。

ササの葉の穴のなぞ ヒント2



ササの葉は、このように芽を出して育ちます。

- 丹沢の岩は、青っぽいものや緑がかつたものが目立ちます。
- 岩の色は、それに含まれる鉱物の色を反映していますが、大ざっぱには、青や緑などの色は多くの場合、中に含まれている鉄分と酸素の結びつきが弱いことを示しています。
- これに対して、中に含まれる鉄分が酸素と強く結びついていると、多くの場合、赤、茶色、黄色などの色になります。鉄が赤くさびたときの色というわけです。
- 地球上で酸素がたくさんあるのは、空气中です。地上に噴(ふ)き出して固まった火山の溶岩や、地表に顔を出して風化が進んだ岩は、酸素との結びつきが強くなります。一方、深い海の底や、地中深くでできた岩の酸素との結びつきは、弱いものになります。
- このように岩の色は、その岩がたどってきた歴史を考えるとき、手がかりの一つになります。